

第1-4期の活動計画

重点分野1：大学拡充計画の推進						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉の総合大学化の完成 2. 大学の発展と更なる進歩を目指す 3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組 4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行 5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保 						
<p>責任者:鈴木秀幸(法人事務局長)</p> <p>分担者:辻 紀子(企画広報課長)、辻井悦生(管財課長)、向井正治(医療福祉事業管理室)、栗原 通(桜の森病院事務長)</p> <p>事務局:企画広報課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—————					—————▶
中期計画 2.	—————					—————▶
中期計画 3.	—————					—————▶
中期計画 4.	—————					—————▶
中期計画 5.	—————					—————▶
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 医療・福祉の総合大学化の完成	<p>①医療・福祉の総合大学として、学部、学科、専攻の更なる充実を図り、社会のニーズに適応した学部学科等の新設、再編について検討、推進する。</p> <p>◆学科や専攻の増設により複雑化した現在の学部・学科編成を志願者が分かりやすいよう再編成するための検討をする。</p>					
2. 大学の発展と更なる進歩を目指す	<p>①医療・福祉以外の分野の学部学科等の新設の可能性について検討する。</p> <p>医療・福祉の総合大学として、大学がさらに発展していくように、食と健康を切り口とし、医療・福祉以外の分野の学部学科等の新設の可能性を検討する。</p>					
3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組	<p>①桜の森病院のISO9001認証の維持</p> <p>◆ISO9001認証を維持する。2024年度は再取得審査を受審する。</p> <p>②主要病院との関係強化</p> <p>◆県内主要病院への情報発信・情報収集に努める。</p> <p>③外部研修会・公開講座の実施</p>					

	<p>◆連携医療機関医師等に対する緩和ケア病棟入院料施設基準に準拠した緩和ケア研修会を実施する。(年1回)</p> <p>◆一般市民を対象とした緩和ケアについての情報提供発信として市民公開講座を開催する。(年1回)</p> <p>④学部との連携 ◆学部教員の医療資格者(管理栄養士、理学療法士、臨床心理士、臨床工学技士、鍼灸師等)との連携により、患者への医療サービスの充実を図る。</p> <p>◆看護学部・薬学部・鍼灸サイエンス学科との実習連携を強化する。</p> <p>⑤訪問看護ステーション桜の森との連携強化 ◆緩和ケア病院の附属ステーションとしての強みを活かした看護・リハビリのサービスを提供する。</p> <p>⑥新たな分野への発展の具体方策の検討</p> <p>⑦国・県の地域医療構想推進支援策の研究</p> <p>⑧北勢緩和ケアネットワーク事務局の世話人 事務局の所掌事務を適切に実施し、北勢緩和ケアネットワークの連携・強化を図る。</p>
<p>4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行</p>	<p>①新学科増設に伴う必要スペース及び施設改修検討 ◆既存スペースでの導入検討</p> <p>◆新增築での導入検討</p>
<p>5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保</p>	<p>①中期施設整備計画からの老朽化施設整備 ◆安全性、重要性、緊急性を考慮した老朽化施設の効率的な施設整備の実施 建物：千代崎 A. B 講義棟外壁、防水設備の改修 衛生：白子 5 号館トイレ改修 空調：千代崎及び白子老朽化空調設備整備 (中長期整備計画により順次実施)</p> <p>②法令改正等への遵守(耐震、防災等) ◆現行法令に乗った計画的更改 二次部材：千代崎体育館バスケットボール耐震 千代崎エレベーター耐震(地震感知装置他)</p> <p>◆更なるバリアフリー化の検討 外構補床(スロープ設置)</p> <p>◆BCP を考慮した防災施設の検討 災害対策室の整備 備蓄品整備 自然災害管理、事業継続管理チームと連携した施設の整備</p> <p>③地球環境を考慮した施策整備の実施 ◆照明(LED化)、高効率空調設備への更改によるエネルギー削減</p>

	<p>④魅力的な学習環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none">◆ICTを考慮した講義室の整備 千代崎A講義棟、白子1号館講義室整備 <p>⑤強化指定バスケットボール体育館構築</p> <ul style="list-style-type: none">◆白子キャンパス体育館建設
--	--

第1-4期の活動計画

重点分野2：大学広報の強化と入学者受け入れの改善						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信 2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化 3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足及び適正化） 4. ディプロマを明確にした広報活動の展開 5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進 						
<p>責任者: 森下芳孝（学生・社会貢献担当副学長） 分担者: 小山尚樹（入学課長）、辻 紀子（企画広報課長） 事務局: 入学課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信	<p>①広報内容について、各組織（学部学科）や事務局との相互連携を図り、教育、研究、学生活動、地域貢献などの情報収集と共有を行う。また、入学課と連携し、大学広報と入試広報の相乗効果を生みだしていく。</p> <p>②大学の取り組み、教育や研究の成果、社会貢献活動などの内容を適切な媒体へ積極的に発信する。</p> <p>(1) 大学ホームページの充実化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学ホームページの管理運営、見直し改善を行う ・ 新着情報発信への迅速な対応をする ・ What's new の情報更新（随時）を行う ・ Web サイトのリニューアル(受験生応援サイト 2024年5月予定) ・ 新規 Web サイトの検討（学内外広報サイト 2024年度内予定） <p>(2) ソーシャルメディアを用いた情報発信を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルメディアの活用方法を検討する ・ SNS の投稿内容や機能を活用し運用強化する ・ SNS や動画配信の発信方法について創意工夫する 					

	<ul style="list-style-type: none"> ・大学紹介動画について、内容の修正や追加を検討する <p>(3) マスメディアを利用した情報発信を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SUMS News」の発行（年4回発行） ・広告媒体の有効的な利用（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、交通広告等） <p>③ 大学ポートレートへの継続参画を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の教育情報に関する情報公開の充実を図る ・一斉更新（2024年7月）、以降新情報を随時更新する
2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化	<p>① パブリシティ機会の獲得に有効な情報発信に注力し、新聞・テレビ・ラジオなどマスメディアを利用したプレスリリースやプレス向けイベントなど広報活動を積極的に行う。（プレスリリース目標値：前年度比+10%以上）</p> <p>② マスコミとの良好な信頼関係を構築し、ネットワークを広げる。</p>
3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足及び適正化）	<p>① 2024年度定員未充足学科（専攻）に重点を置いた広報活動を強化する。そのため、早期の受験生との接触機会を増やすことを狙いとし5月～9月にオープンキャンパスを開催する。</p> <p>② 早期入学者確保をめざし、総合型選抜の選抜方法の見直し（ZOOMを利用した事前相談及び、12月、1月、3月の選抜試験の追加）</p> <p>③ 早期入学者確保をめざし、学校推薦型選抜における指定校制入学者の増加を図るため、推薦基準等の大幅見直しを図る（対象校の拡大、出願評定基準の引き下げ、その他の出願条件の大幅な緩和）</p> <p>④ 双方向型の受験情報発信（一方的な発信ではなく、対話・相談型）をこれまで以上に推し進める。</p> <p>⑤ 対象を高校生（特に高1・2生）にしぼった学科別PR動画を作成し、定期的に配信する。（動画は、YouTubeなど動画配信サイトを活用し、簡易かつ自由に視聴できる環境を用意する）</p>
4. ディプロマを明確にした広報活動の展開	<p>① ディプロマから想定される各学科が入学前に求める具体的能力（高校での履修内容・レベル）を明確化する（必要とされる知識をより具体的に明示する）</p> <p>また、すでに全学科共通で入学前教育において不足する学力の補填と意識付けを行っているが、今後、学校推薦型選抜及び総合型選抜での入学者の比率が高まることを想定し、各学科独自のプログラムの導入（対面式）を推進する。</p>
5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進	<p>① 高大連携協定校との定期的な協議を行うと同時に、県内高校とこれまで以上に連携強化を進める。なお、協定校を対象とした個別オープンキャンパスや高校内ガイダンスを実施する。</p> <p>② 各高校で導入されている「学問探求活動」「キャリア教育」への医療系大学としてのサポートを積極的に行い、本学の教育内容への理解を促進する。（入学実績校からの依頼は原則、全て対応）</p>

することを目標とする)

- ③県内高校生を対象としたイベント（科学オリンピック）の本学での共催・後援をこれまで以上に密にし、意識の高い高校生（高校教員）の本学に対する認知・理解を深める。（イベントへの本学教員・学生のサポート参加を進める）

第1-4期の活動計画

重点分野3：教育内容の充実						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証 2. 数理・データサイエンス（統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能）など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立 3. 学修者の能動的な修学を支えるために、学修者自身が自学自習や就職活動に学修支援システムを役立てる仕組みの構築 4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型カリキュラムの再構築とその実践 						
<p>責任者: 豊田長康 (学長) 分担者: 福田八寿絵 (医療人底力教育センター長)、田口博明 (FD 推進委員長)、鶴岡信治 (医療健康データサイエンス学科長)、堀浩樹 (教務委員会副委員長)、松原奈未 (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	SUMS 方式学修支援方法の樹立		SUMS 方式学修支援方法の遂行とその検証	→		
中期計画 2.	数理・データサイエンスに関する人材育成カリキュラムを全学的に編成		数理・データサイエンスに関する人材育成カリキュラムを展開する教育体制の確立	→		
中期計画 3.	学修支援システムの拡充と学修成果の可視化		学修者自身が自学自習や就職活動に学修支援システムを役立てる仕組みの構築	→		
中期計画 4.	新設学科及び大学附属桜の森病院を加えた横断的カリキュラムの作成		新教育システムの再構築とその実践		→	
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証</p>	<p>教育改革委員会、教育質保証委員会、教務委員会、FD 推進委員会の連携による学修者本位の教育の改善と各学科の教育の質向上を図る「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の遂行</p> <p>①本学教育の基本的方向性と具体的施策の立案とその実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教育改革委員会に加えて各学科及び全学共通分野の教育質保証委員会と連携し、学生の学力を担保しつつ、留年・休学・退学する学生を最大限に少なくする「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の遂行に努める。 ◆教務委員会は、教育改革委員会の意向を具体化し、各学科との調整を図りながら、特別教育に関する運用を明確にする。 <p>②FD 推進委員会による教員意識の改革と授業改善の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆効果的な教授法の習得とともに教育や講義の質を向上させるために、年2回以上のFD 研修会・講習会を開催する。 					

	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育改善に役立てるために、学生参画型の教育改革委員会・FD推進委員会を年1回以上開催する。 ◆本学FD活動を他の大学・短大等にも広報し、連携を図ることによって、授業改善の相乗効果を生み出すための教育に関わる講演会を少なくとも年1回以上開催する。 ◆学生授業評価アンケートを実施し、授業改善や教育の質の向上を目指す。 ◆LMS (Learning Management System) 研究部会では、learningBOXを用いた授業改善の事例等を含む研修会を年2回以上開催する。 ◆LMS 研究部会は、ICT を利活用した双方向型授業や自学自習・演習の作成例など、教員のためのマニュアルを作成し、学内に公開することにより、学修支援システム活用率の向上を推進する。
<p>2. 数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立</p>	<p>数理・データサイエンス教育の始動に向けての教育体制の整備</p> <p>①数理・データサイエンス教育の全学的な体制作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ICT を活用した基礎的な情報利活用能力を養成する科目を全学的に実施する。 ◆「数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)」などの今後の社会に必要とされる数理的思考能力やデータ分析・活用能力を育成するために、医療機関・行政・企業等の実データ等を用いた科目を実施する。 ◆Society5.0 と SDGs を実現することを意識し、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を提供することを目的とし、数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習・演習 (learningBOX や動画などを使用したデジタル教材の活用) の仕組みを継続して構築し、教育の質の向上を目指す。 ◆ChatGPTをはじめとする生成系 AI の登場などで社会変革が起る中、データサイエンスの知識を身につけることができる講座を開講し、数理・データサイエンス・AI と社会のつながりについて基礎的知識を持った教員の養成を目指す。
<p>3. 学修者の能動的な修学を支えるための学修者自身の自学自習や就職活動に学習支援システムを役立てる仕組みの構築</p>	<p>学修者本位の教育として、学生が「学修」する者としての責任と覚悟に気付き、能動的に学習できる体制を構築</p> <p>①学修支援システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「リメディアル教育改革チーム」を立ち上げ、入学前教育及びプレイスメントテストを含むリメディアル教育の内容を見直し、基礎学力の不足する学生を一層早期に発見・抽出し、e-learning を活用しながら学力の向上の仕組みを構築する。 ◆遠隔会議システム Zoom または動画などを利用した反転授業用教材を事前学習や事後学習に役立てるために、各学科、全学共通分野において1科目以上の教材の作成とそれらの授業への導入に努め、学生の授業外学修時間について、予復習全くしない学生をなくす(0人)ことを目指す。 <p>②IR 推進室による分析データの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「リメディアル教育改革チーム」を立ち上げ、成績不振の学生の早期同定情報及びフォローアップデータの分析を行い、学

	<p>科・専攻、学生総合支援チームと情報を共有する。</p> <p>③学修者本位の教育として、一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」を評価検証する教育質保証を実践するための学生本人による学修ポートフォリオなど可視化された学修成果の確認と、その活用の考案</p> <p>◆教務システムの新規導入などにより以下の学修支援の実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修ポートフォリオの充実による学生自身の成長の確認 ・ループリックの活用による評価尺度の標準化と可視化 ・ディプロマ・ポリシーの到達度の確認 ・就職活動のための到達度認定書の発行や卒業時の学習成果の可視化のためのディプロマサブリメントの交付 <p>◆教育目標について、卒業時に学生による学習到達度の自己評価を調査し、その結果を本学ホームページに公表し、大学として教育成果を確認し、教育改善に活用する。</p> <p>④卒業後アンケート調査結果等とそれらの活用</p> <p>◆卒業生の就職先等の進路先による調査を施行し、調査内容及び調査結果について公表するとともに、調査結果等を教育改善へ反映を図る。</p>
<p>4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型のカリキュラムの再構築とその実践</p>	<p>入学前教育、初年次教育、専門教育の連携の強化により、専門教育の土台となる知識・技能・態度を総合的に涵養する教育体制の整備</p> <p>①医療人底力教育の再構築</p> <p>◆実社会の課題解決に生かせる能力を養うため、医療人底力教育に数理・データサイエンスの要素も組み入れ、専門分野横断的なSTEAM教育の実施に努める。</p> <p>◆「医療人底力教育改革チーム」を立ち上げ、「医療人底力実践プログラム」の見直しを検討し、2年次以降の多職種連携教育への繋ぎ方などカリキュラムを確認し、本学独自の魅力ある教育改善策の遂行を図る。</p> <p>◆桜の森病院、桜の森白子ホームとの協力体制に基づいた施設横断型カリキュラムの企画し、遂行を図る。</p> <p>②高いレベルの学力と総合力を培うための教育</p> <p>◆現在実施中の事例と実践で学ぶ多職種連携教育を各学科・専攻の専門性を生かせるような内容へと進化させ、全学科の学生が履修可能な体制を整備することで、医療人としての総合力を養う一貫教育の実施を図る。</p> <p>③新学生支援システムの構築とその実践</p> <p>◆「学生総合支援改革チーム」を立ち上げ、TAなども活用し、成績不振の学生を中心とした学修支援、学びの相談、及び各学科との連携・情報共有体制を樹立する。</p> <p>◆「学生総合支援改革チーム」は、コーチングなどの面談手法の確立、タイプ分け評価尺度の構築、面談効果の分析をした結果を、教育改革委員会で確認し、内容によっては、FD・SD講演会で発表し、全学的な学修支援に活用する仕組みを構築する。</p>

第1-4期の活動計画

重点分野4：学生支援の強化						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験の標準修業年限内合格率100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施。 2. 就職率100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実。 3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する。 4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる 						
<p>責任者：森下芳孝（学生・社会貢献担当副学長） 分担者：岩崎泰正（健康管理センター長）、大井一弥（国家試験対策委員会副委員長） 綾野真理（学生相談室室長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、大畑太（学生課長）、 勝田能成（白子学生・就職課長） 事務局：学生課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画1.	→					
中期計画2.	→					
中期計画3.	→					
中期計画4.	→					
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 国家試験の標準修業年限内合格率100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施	① 本学の教育理念である「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を実践し、支援体制構築に向けて取り組む。各国家試験における合格率に毎年度の目標値を設定し、目標達成に必要な行動計画の企画立案と施策実施をする。 ◆計画の進捗状況については学長諮問機関である国家試験対策委員会で進捗状況を把握し運営していく。					
2. 就職率100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実	① 本学の「教育方針2021」にある「面倒見の良い、魅力ある大学」を目指し、卒業後の進学・就職支援体制構築に向けて就職希望者に対する就職率100%を目標とする。 目標達成に必要な行動計画の企画立案と支援体制を整え、施策実施状況については、就職委員会で進捗状況を把握し運営していく。 ◆学科単位で開催する年間就職ガイダンスに加え、進路就職相談の個別対応については対面方式の対応とWEBによる遠隔オンライン方式を活用して対応していく。 ② 薬学部5年次生を対象とした学内合同企業説明会の実施 病院・薬局・製薬メーカー・官公庁など幅広い業界の法人様に参加いただき、オンライン等を活用して情報発信を行う。 ③ 薬学部1～6年次生を対象とした学内個別企業説明会の実施 薬剤師が活躍できる業界を知り、目指す薬剤師に対する意識向上					

	<p>に繋げることを目標とし、オンライン等を活用して企業研究の場とする。</p> <p>④ 看護学部 1～3 年次生を対象としたマナー講座の実施 低学年からマナーに対する意識付けをし、実習において実践することで、医療人としてのマナーを身に付ける。</p> <p>⑤ 看護学部 3 年生を対象とした三重県厚生農業協同組合連合会の病院説明会の実施 就職ガイダンスの一環として、病院研究を目的とし JA 三重厚生連に所属する病院の看護部長及び卒業生による病院説明会を実施する。三重県の病院への就職率を向上させる。</p> <p>⑥ 医療栄養学科に関して、民間企業就職への魅力付けを行い、病院・施設と並行して企業就職への就職活動を行えるよう指導していく。</p>
<p>3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する</p>	<p>【学生課】</p> <p>①学生からの意見・要望をより学生支援に反映させるため、学生調査の質問項目を検討する。</p> <p>②在学生アンケートを実施する。(意見・要望の集約)</p> <p>③卒業生アンケートを実施する。</p> <p>④学友会組織との意見交換会を実施する。</p> <p>⑤学長と学生との意見交換会を実施する。</p> <p>⑥あいさつ運動及び、通学路における交通指導の実施</p> <p>⑦学生食堂・売店との意見交換会を実施する。</p> <p>⑧障がい学生に対応した学内環境を整備する。</p> <p>【健康管理センター】</p> <p>⑨健康診断を円滑に実施し、学生の健康状態のスクリーニングを行う。所見のある学生には、再検査および保健指導を実施し、必要であれば医療機関を紹介するなど、健やかに大学生活が送れるよう支援を行う。再検査に来ない学生には、再度呼び出しを行い、再検査を実施する。</p> <p>⑩全学部生を対象にUPI（精神的健康度調査）を実施し、こころに問題を抱えていると思われる学生の早期発見および学生相談室と連携して面談を行うことにより、精神的な面へのサポートを行う。</p> <p>⑪メンタルヘルス上の悩みや問題を抱えている学生に対して、学生相談室へ繋ぐなど、迅速な判断と対応を行う。</p> <p>⑫感染症の予防及び、修学に必要な抗体検査（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、B型肝炎、C型肝炎）を円滑に実施する。</p> <p>⑬抗体検査の結果、基準値を満たさない学生には、学外実習にお</p>

	<p>ける感染のリスクを予防するため、ワクチン接種の勧告を行う。</p> <p>⑭新型コロナウイルスやインフルエンザなど、感染症の拡大防止のため、必要な学生に対して抗原検査を実施する。</p> <p>【健康管理センター・白子保健室】</p> <p>⑮各々の施設が管轄する学生に対し、病気やケガなど健康上の問題点への迅速な対応、ならびに適切な処置を行い、必要な際には病院搬送を行う。</p> <p>⑯入学時に提出してもらっている「健康調査票」の内容をもとに、大学生活を送るにあたり健康面での配慮が必要な学生に対して、医師による面談を実施する。</p> <p>【学生相談室】</p> <p>⑰学生の多様なニーズに対応するため、対面、メール、電話、Zoom等、多様な方法で相談活動を行う。</p> <p>⑱学生のニーズを把握するために、アンケート調査を実施する。</p> <p>⑲相談件数の増加、相談内容の複雑化、障害学生支援対応件数の増加等に伴う業務逼迫の状況を改善するために、業務の見直しを行う。</p> <p>⑳学内各署との連携強化のために、学生支援についての教職員からのニーズを把握するために、アンケート調査を実施する。</p> <p>【医療栄養学科】</p> <p>㉑学生への栄養及び食生活指導による健康管理への介入 健康診断の結果から栄養不良（低栄養及び過栄養等）に該当する学生への栄養相談の充実</p> <p>㉒学生への栄養及び食生活に関する情報発信の実施</p>
<p>4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる</p>	<p>①学生団体組織（学友会、大学祭実行委員会、クラブ・サークル運営委員会、各課外活動団体等）の継続的支援を行う。</p> <p>②課外活動の本格的再開（コロナ 5 類移行）に合わせたルールの整備と、安心して取り組める支援を行う。</p> <p>③オリエンテーション等での SUMS ポイント制度の周知及び、ポータルサイトでの取得促進に向けた取り組みを実施する。</p> <p>④学生・教職員が社会貢献・地域貢献活動へ参加できるよう継続的に支援する。</p> <p>⑤学生の学内及び学外のボランティア活動への積極的参加を促す取り組みとサポートを実施する。</p>

第1-4期の活動計画

重点分野5：教職員の育成と人材確保																		
<p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SD研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。 2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する。 3. 他の大学等と協同で、FD/SD研修会を定期的に開催する。 																		
<p>責任者: 豊田学長 分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、矢田智樹 (人事・厚生課長) 事務局: 人事・厚生課</p>																		
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度												
中期計画 1.	—————→					→												
中期計画 2.	—————→					→												
中期計画 3.	—————→					→												
2023年度活動計画																		
対応する中期計画項目	活動計画内容																	
<p>1. SD研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。</p>	<p>SD研修にかかる年次計画を策定し、教職員の資質向上に必要な研修を計画的に実施する。</p> <p>○年次計画</p> <p>(1) 本学または連携大学が主催する研修</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">研修項目</th> <th style="width: 30%;">受講計画者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①オンライン等々のテーマ別SD研修会(年4回) ※このうちの1回をハラスメント相談対応の研修とする。</td> <td style="text-align: center;">200名/1回</td> </tr> <tr> <td>②連携大学との共同FD/SD研修会(年2回)</td> <td style="text-align: center;">50名/1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本学以外の機関または団体が主催する研修等への派遣</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">研修項目</th> <th style="width: 30%;">延べ受講計画者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修</td> <td style="text-align: center;">10名</td> </tr> <tr> <td>②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのセミナー、講演会、研修などの実務研修</td> <td style="text-align: center;">30名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3)OJTの継続実施 経験豊富な職場の上司や先輩が、職場での実践を通じて若手職員や後輩を計画的に指導・教育、自己啓発の勧奨に取り組み、業務知識等を習得させ育成する。</p> <p>(4)新規採用教職員オリエンテーション 新規採用教職員に対し、各課から基本的な事務業務説明や講習を行う。</p>						研修項目	受講計画者数	①オンライン等々のテーマ別SD研修会(年4回) ※このうちの1回をハラスメント相談対応の研修とする。	200名/1回	②連携大学との共同FD/SD研修会(年2回)	50名/1回	研修項目	延べ受講計画者数	①階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修	10名	②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのセミナー、講演会、研修などの実務研修	30名
研修項目	受講計画者数																	
①オンライン等々のテーマ別SD研修会(年4回) ※このうちの1回をハラスメント相談対応の研修とする。	200名/1回																	
②連携大学との共同FD/SD研修会(年2回)	50名/1回																	
研修項目	延べ受講計画者数																	
①階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修	10名																	
②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのセミナー、講演会、研修などの実務研修	30名																	

<p>2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する</p>	<p>・コンサルティング会社を活用し、時代に即した新たな人事制度の構築に向けて検討を進める。</p>
<p>3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的開催する</p>	<p>私学連携協議会みえ及び高等教育コンソーシアムみえの連携校と情報共有を図り、各連携校で開催される FD/SD 研修会に教職員を積極的に参加させる。</p>

第1-4期の活動計画

重点分野6：研究活動の活性化を通じた社会貢献						
<p>【基本方針:3】 本学の特色を生かした研究を通じての社会貢献</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分 2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備 3. 研究活動推進のための外部資金の獲得 4. 研究倫理の確立と厳正な運用 5. 産学官連携研究活動の推進 						
<p>責任者:鈴木宏治（大学院・研究担当副学長、社会連携研究センター長） 分担者:真弓 昭（研究振興課長） 事務局:研究振興課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
中期計画 6.	→					→
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分	<p>①SUMS 学科横断的共同研究の推進【研推】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学部・学科横断的な共同研究への研究費助成を行う。 ◆採択された研究課題はホームページに掲載する。 ◆学部・学科横断的共同研究支援事業の問題点を改善し、内容の充実を図る。 					
2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備	<p>①研究環境の整備と適切な運営・管理【研推・社セ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆三重県薬事工業会と連携協力に関する包括協定を締結し、協働の取り組みを推進することにより、薬事工業会会員企業の発展並びに地域活性化に資するとともに、本学の学術研究及び教育活動の活性化を図る。 ◆松阪市内の異業種6社から成る医療機器分野への進出を目指す企業間連携・共創チーム「松阪メディカルメンバーズ（MMM）」と連携して共同研究を進めるための環境整備を図る。 ◆SUZUKA 産学官交流会の下部組織として、医薬品・医療機器の開発を目指す「鈴鹿メディカルグループ（SMG）」と連携し、共同 					

	研究を進めるための環境整備を図る。
3. 研究活動推進のための外部資金の獲得	<p>①科研費等の競争的外部資金を獲得するための具体的方策の取り組み【研推】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆科学研究費などの外部資金の獲得増大を図るため、採択経験豊富な教員による、計画書の作成方法等に関する研修会を実施する。 ◆国内の研究振興財団や民間企業等からの研究費助成の公募案内を全教員にメール等で周知し、研究費助成金を獲得する体制を整える。 <p>②ホームページで教員の研究成果や取組事例の紹介【研推、社セ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に関する広報を充実させる。
4. 研究倫理の確立と厳正な運用	<p>①研究倫理に関する体制整備【研推】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆最新の研究倫理に関する諸規程を随時紹介し、学内の臨床研究倫理審査委員会と連携して研究倫理の理解向上と研究支援体制の整備を図る。 <p>②研究倫理の厳正な運用【研推】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆毎年度の「研究倫理に関する研修会」の受講を推奨する。
5. 産学官連携研究活動の推進	<p>①ホームページで教員の産学官連携研究活動の成果や取組事例の紹介【社セ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に関する広報を充実させる。 <p>②外部の産学官連携活動への参加による学内の研究活動情報の積極的発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆外部機関等による産学官連携活動に積極的に参加し、学内の研究活動情報の発信に努める。【社セ】 ◆みえメディカルバレー構想、みえ LIP 等の活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。【社セ】 ◆SUZUKA 産学官交流会の活動に参加し、学内の研究成果等を積極的に発信し、地域企業等との共同研究を推進する。【社セ】 ◆三重大学との包括的連携協定に基づき、両校間の共同研究を推進する。【社セ】 ◆鈴鹿工業高等専門学校との学術協定に基づき、医工連携研究会を毎年開催し、両研究機関の共同研究を推進する。【社セ】 ◆鈴鹿病態薬学研究会を毎年開催し、学外研究者との交流と共同研究を推進する。【社セ】 ◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携し積極的に学外メディアを活用した情報発信を行う。【研推、社セ】

第1-4期の活動計画

重点分野7：国際交流の推進						
<p>【基本方針:2】 留学生の確保</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生受入れのための体制整備 2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置 3. 国際交流事業の実施 4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充 						
<p>責任者:高木久代(国際戦略担当副学長)</p> <p>分担者:永坂哲(国際交流センター長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)</p> <p>事務局:就職・キャリア支援課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→		→			
中期計画 2.		→	→			
中期計画 3.		→				→
中期計画 4.	→					→
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 留学生受入れのための体制整備	<p>①施設の整備</p> <p>◆2023年度末に整備した国際交流センターの物理的な面を含め充実を図る</p>					
2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置	<p>①留学生の受け入れから管理まで一元的に行う部署の設置に伴い、専門的に対応する人材に関して検討する。</p> <p>◆現在は就職・キャリア支援課が国際交流センターを兼任しているが、状況を精査し、専門部署の設置・人材に関し検討する。</p>					
3. 国際交流事業の実施	<p>①国際交流事業の展開</p> <p>◆教員レベルでつながりのある大学等を一つの切り口とした国際交流の機会を捉え、更なる国際提携を広めていく。</p> <p>◆国際的視野の重要性、つまり固定観念にとらわれない柔軟な視野(考え方)を身につけることで、一個人の協調性の向上につなげる。</p>					
4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充	<p>①既に海外研修を実施している学科については交流の継続に加え、魅力発信を試みる。</p> <p>◆海外交流を行った学生の体験を広報誌・ホームページ等に掲載する。</p> <p>②学生の国際交流が未実施である学科に対し支援を推進する</p> <p>◆国際交流センター運営委員会を通じ、支援策を検討していく。</p>					

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 8 : 信頼性の高い事業継続可能な組織体制の改革						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【基本方針:7】 大地震など災害への備え</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価（PDCA サイクル）による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る。 2. 危機発生時における体制の整備と、BCP を含めた各種マニュアルの更新を行う。 3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る。 						
<p>責任者: 豊田長康 (学長)</p> <p>分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、大畑太 (学生課長)、矢田智樹 (人事・厚生課長)、辻 紀子 (企画広報課長)、防災危機管理対策委員会</p> <p>事務局: 学生課、人事・厚生課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価（PDCA サイクル）による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る</p>	<p>中期計画・活動計画達成状況の自己点検・評価及び外部評価に基づき、PDCA サイクルの質を向上させる。</p> <p>【大学事務局に関すること】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① DX の実質化に向けて、具体的な取組みを構築し、教職員と学生を対象に標準化させる。 ② 「鈴鹿医療科学大学 内部質保証体制図」に基づく活動内容を検証し、課題発見とその改善を行いブラッシュアップしていく。 					
<p>2. 危機発生時における体制の整備と、BCP を含めた各種マニュアルの更新を行う</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 危機発生時における体制 及び、マニュアル等の整備を行う。 具体的には、学内体制や手順・役割分担などの明文化の他、事象毎のマニュアル作成、安否確認システムの整備 及び、訓練（試行テスト）を実施する。 ② 教職員及び学生に対し、安否確認システムによる安否確認を複数回実施し、発信 2 時間後の回答率を 80%以上にする。(人事・厚生課) 					

<p>3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る</p>	<p>ハラスメント相談に対応するための「スキル」や「心構え」について研修し、窓口担当者はもとより、事務組織全体のレベルアップを図る。</p>
--	--

第1-4期の活動計画

重点分野9：財務基盤の充実						
<p>【基本方針:全体】 経営体制の充実・強化、財務基盤の充実、補助金等の外部資金の獲得</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証 2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証 3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証 4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証 						
責任者:鈴木秀幸(法人事務局長) 分担者:辻井悦生(管財課長)、岩田善光(経理課長)、真弓 昭(研究振興課長)、 経費削減推進委員会 事務局:経理課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証	重点分野1：大学拡充計画の推進や重点分野2：大学広報の強化と入学者受け入れの改善の計画を進め、学納金収入の増加を検討する。(前年度比100%以上を目標とする)					
2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証	①学科ごとの教育設備における中長期計画内容の共有化 ◆学科予算打ち合わせ時における各学科からの「今後6年間における学科内教育設備整備計画」の見直し及び共有化 ②各学科の中期計画に則った教育設備に対する補助金やICTなどの施設設備に対する補助金の募集状況に応じた申請を行う ◆上記「学科内教育設備整備計画」に基づき申請予定 ・教育装置(放射線)画像読影・処理・サーバーシステム ・研究設備(薬学)共焦点レーザー走査型顕微鏡 ・施設環境改善整備(空調設備等工事)熱中症対策、老朽化空調					
3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証	① 教員の研究活動に資するための財務基盤として、大学の研究シーズを活用した研究補助金、受託・共同研究費、寄附金等の獲得 ◆教員の研究成果や取組事例等を積極的にホームページで紹介する。 ◆産学官連携イベントに積極的に参加し、学内の研究成果等を発信する。					

	<p>◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携し積極的に学外メディアを活用した情報発信を行う。</p>
<p>4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証</p>	<p>①経費削減推進委員会の活動対象を、従来の省エネルギーに関する活動以外に、事務局のコピー機利用削減（ペーパーレス化）を目標とした活動を加える（全体枚数、カラボール枚数前年比5%削減を目標）</p> <p>②施設関係（千代崎・白子キャンパス） 令和6年度の電気使用量は令和5年度電気使用量より1%削減 省エネ行動の徹底及び照明LED化、高効率空調機への更改 ◆省エネルギー意識向上のための講演会の開催（年1回）</p> <p>◆サムスエコ通信の発信（年6回）</p> <p>◆新たな経費削減メニューの提案（令和6年10月）</p> <p>③経費削減意識の向上を目的とした活動の継続的実行 ◆未使用講義室の消灯及び空調停止確認による電気使用量削減（チェック表による確認）</p> <p>◆電気使用量実績共有による節電意識の向上（月毎の使用実績の共有）</p> <p>◆千代崎キャンパスへの太陽光導入検討（令和6年度内実施予定）</p>

第1-4期の活動計画

重点分野 10：4つのポリシーの実質化						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <p>1.4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する。 2.ディプロマポリシーの達成度をチェックし、向上させる仕組みを実行する。 3.各学科のアセスメントポリシーに基づいて、自己評価委員会を通して点検・評価し改善する。</p>						
責任者:豊田長康(学長) 分担者:教育改革委員会、教育質保証委員会 事務局:教務課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する	①教育目標を踏まえたディプロマポリシーと共に4つのポリシーを学生に周知する。 ②内部質保証体制図に基づき、4つのポリシーと教育課程との整合性を教育質保証委員会が点検し、教育改革委員会へ状況を報告する。					
2. ディプロマポリシーの達成度をチェックし、改善点を検討する。	①卒業予定者に、学修成果に関する達成度を測定するアンケートを実施し、蓄積している調査結果と併せて分析し、改善点等について、教育質保証委員会で検討する。 ②卒業生及び卒業生の就職先等へ調査した結果を基に、ディプロマポリシーの達成度をチェックし、教育改善へ反映を図る。 ③教育質保証委員会は、年度末に教育方針の改善点等について纏め、教育改革委員会へ報告する。					
3. アセスメントポリシーについて、教育質保証委員会を通して確認する。	①新規導入した教務システムの機能を活用し、学生自らが、学修行動を振り返り、立ち位置を確認し、教育質保証委員会を通して、主体的な学習を促すための仕組みを構築したが、学生に周知を徹底し、活用率100%を目指す。 ②反転授業の推進、オンライン環境下での試験実施方法の開発など新たな学修評価の在り方を開発する。					

第1－4期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（放射線技術科学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者:放射線技術科学科長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策WG副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長) 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育環境の充実 <ol style="list-style-type: none"> ① 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和6年度には、診療画像読影システムの構築を目指す。 ② 学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。 2. 質の高い臨床実習を実現するため、改善点として以下を計画する。 <ol style="list-style-type: none"> ① オンラインミーティングシステム (ZOOM) を活用し、全臨床実習指導施設 (約70施設) を対象とした臨床実習報告会および次年度臨床実習説明会をそれぞれ年に1回開催する。 ② 2年次5月に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する ③ 3年次学内実習においては対面で行い、年度末に学内教員により対面での実技試験 (OSCE) を導入する。 					

	<p>④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート（ポートフォリオ）」を作成し、効果的な経験学習を促進する。</p> <p>3. 教授方法のさらなる改善</p> <p>① 学修サポートシステムの教員活用を進める。特に今年度は、learning Box 等の e-ラーニングを用いた予習復習支援教材を導入する。2024 年度は専門科目の 90%以上で導入することを目指す。</p> <p>② すべての演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 1 年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍、あるいは社会人大学院生として活躍する診療放射線技師と接する機会をつくり、将来のキャリアデザインを描く手がかりとする。医療人底力実践基礎 I 学科プログラムにて企画する。</p> <p>2. 初期教育の一環として専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。マナー・ノンテクニカルスキル教育を 2-3 年生対象に実施する。特に、学内実験実習においては、必ず取り組む。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 目標値 受験者あたりの合格率 95% HR21 年入学生あたりの合格率 80%</p> <p>2. 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1 年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。</p> <p>② 1 年生、2 年生は年 2 回の模擬試験を実施、3 年生は年 7 回の模擬試験実施、4 年生は web 試験も含め年 14 回の模擬試験を実施する。</p> <p>③ 4 年次模試の結果から、後期以降、成績不振者を月 1 回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、e-ラーニング等によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。</p> <p>④ 担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。1-3 年生は年 3 回以上、4 年生は月一度以上の面談を実施する。</p> <p>⑤ 4 年後期、週一日、国試対策講義を開講する。</p> <p>⑥ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援（個人指導）を行う。</p> <p>⑦ 模擬試験成績不振者の保護者へ成績通知を行う。</p> <p>⑧ 10 月以降模擬試験や 9 月以降国家試験対策講義（放射線科</p>

	<p>学特論)では、座席を模擬試験成績順(成績下位者から順に前方)に指定席を設定する。</p> <p>⑨ 国家試験直前の1月から2月にかけて、成績不振者を対象に特別補習を実施する。</p>
4 市民公開講座の計画・実施	<p>・診療放射線技師の職務内容を広く多くの方に伝えるために市民公開講座を開催する。</p>

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療栄養学科/医療栄養学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 医療栄養学科長</p> <p>分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)</p> <p>事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1. 実習試験の導入と拡大 実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようにしてきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の一層の涵養に努める。</p> <p>2. IR 分析結果を活用した教育改善 IR 推進室との連携をもって、学生の教育および生活の問題点を解析し、早期の解決を図るための検討資料とする。</p> <p>3. 教育質保証委員会 “教育質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。</p>					
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. キャリアプランニング授業の構築 学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。</p>					

	<p>2. 早期導入教育の充実 1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会を設け、早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。</p> <p>3. リメディアル教育の実効性向上 受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実は喫緊の課題である。対象となる学生にリメディアル教育への参加を促し、成果としての学修到達度を担任教員が把握してモチベーション向上をはかるように指導する。</p> <p>4. 成績不振者に対するトコトン教育の充実 1～3年の後期終了時に成績不振者に対し、2者ないし3者面談行い、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオ等を活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高めさせると共に、Learning BOXなどの学修支援システムを活用した学習方法などの指導・支援を行う。</p> <p>5. 国家試験対策学習支援の充実 国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、模擬試験では終了後直ちに振り返り学習の時間をとることにより、学生が自ら集中すべき学習項目の確認できるようにする。また、成績不振者には集中して補講や個別指導、及び保護者を交えた面談などを行い、従来から進めてきた学生個々へのきめ細かな指導を継続する。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者当たりの合格率向上 新卒者の管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、進路変更や病気休学の学生を除いて、入学者の標準修業年限内の合格率は90%を目標とする。</p> <p>2. 国家試験対策 カリキュラムとして4年生前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で国家試験対策の指導を行う。</p> <p>3. 3年生以下の学生対象の国家試験対策 3年生に対しても国家試験問題に接する機会が持てるようにして、学習の意義を具体的に意識させる。また、3年生の模擬試験受験を積極的に指導する。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>市民公開講座の実施 両専攻教員による公開講座を開催し、市民に本学科の研究、教育を紹介するとともに、この地域の健康、福祉の向上に貢献する。</p>

第1－4期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床検査学科/医療栄養学科臨床検査学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 臨床検査学科長/医療栄養学科臨床検査学専攻長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策WG副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.		→				→
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> 1, 教育の質保証 座学、実習の内容を充実させる。小テスト、実習確認を実施して全学生の共通した知識を習得させる。 2, IR活用 GPA等を利用して問題点を解析する。低学力学生の利益になるようにし視聴を作成して検討する。 3, 臨地実習の取り組み 新カリキュラムとなり単位化されたオスキーを充実した実習前学習とする。 実習病院では多くの検査項目が存在するがその中でも最重要な検査項目を実習前に修得させる。 					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1, カード学習 形態学部門の教科のカードを作成して楽しく学ぶ。 					

	<p>2, 面談の実施 各学年担任が面談を実施して個々の悩みや学習の取り組み方を把握してアドバイスする。</p> <p>3, トコトン教育の実施 再試験不合格者において、やる気を出すアドバイスをする。何がわからないかを明確にする。</p> <p>4, 底力教育の構築 1年時で学ぶ病院医療(症例検討、病院見学等)について有意義な教育を提供する。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1, 国家試験対策 新カリキュラムにおいて総合演習がⅠ、Ⅱ、Ⅲとなり2単位増加した。これを利用して国家試験対策に充てる。</p> <p>2, ストレート合格 1年生から3年生までに多くの面談を実施して臨床検査技師の仕事内容を理解させる。ミスマッチを防ぐ。</p> <p>3, 1年生、2年生に国家試験の重要性を理解させる。座学の学習は重要であるが将来、臨床検査技師になった時、どのように医用に貢献するのかを伝える努力をする。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>1, 三重県臨床検査技師会 本学で11月くらいに検査と健康展を実施予定である。これまで2年1回のペースで実施していたが、コロナで最近はできていない。これを実施する。</p> <p>2, 鈴鹿市健康フェア 鈴鹿市との共同で実施する。超音波等の検査。</p> <p>3, 底力ゼミの実施 地域医療支援大学を設立して鈴鹿市の地域医療に貢献する。</p>

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（リハビリテーション学科理学療法学専攻/理学療法学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者：リハビリテーション学科長/理学療法学科長</p> <p>分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長）</p> <p>事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>成績不良、留年、退学の原因の多くは、精神的な問題、進路職業適性の問題であり、学生自身により解決が困難である。さらに保護者にこの問題が知らされていない場合が多く、教員と保護者のコミュニケーションが求められる。プライバシーに関わる非常にデリケートな問題だが、学力の底上げ以前の大きな問題として取り組むべきである。具体的にはオンライン等による保護者面談の回数を増やす。また 1, 2 年次の学生フォローアップを増やし、ドロップアウトしそうな学生を早期に発見する。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学生の多くが、学年の進行とともに基礎医学を復習、応用可能な範囲を広げる。さらなるステップアップの機会の提供として、学外のセミナーや学会参加や卒業研究の発表がある。スケジュール調整等、難しい面はあるが、徐々に頻度を上げる。</p>					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>国家試験の合格率は 100% を目指し、最低でも全国平均を上回る合格率を確保する。そのため、1 年から 4 年次にかけて主要科目である 3 科目（生理学、解剖学、運動学）の全国統一模試を行い、学習効果の確認と学習の度合いを学生自身に周知させ、この模試での成績不振者においては e-ラーニングを用いて振り返りを行わせ補習を実施する。また、学生には自主的に国家試験学習</p>					

	ノートの作成を課し、個別に教員がフォローアップする。
4. 市民公開講座の計画・実施	昨年度と同様に、市民公開講座を対面で実施予定。持ち回りにより次回担当者は決定済み。後期講義期間終了後の2, 3月開催予定。

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（リハビリテーション学科作業療法学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: リハビリテーション学科長/リハビリテーション学科作業療法学専攻長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.		→				→
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1 年生では作業療法の県での状況、国際交流を講師に指導してもらい、さらに VR 教材を利用し臨床現場の初期暴露を行い、臨床実習の準備を行う。2 年生では 1 週間の実習を 2 回行い、病院と介護保険下の施設の概要を知る。3 年生では座学の臨床での応用として、5 週間の評価実習を行う。4 年生の総合臨床実習では 9 週間の実習を 2 回行い、療法士としての基礎と技術の習得を目指す。教員は学生の実習配置から実習訪問を円滑に行うように計画を立て実行し、学生の実習のサポートをする。また、臨床実習の事前学習として学内にて模擬患者に対して OSCE を用い行い、実習中は臨床実習支援システムを用いて毎日管理を実施し、学校と臨床現場との密な交流に役立てる。このことで臨床実習での問題を出来るだけ早期に解決できるように援助する。そのため、授業では実習に出るための知識と技術を獲得するため工夫して実習授業にて教授する。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学習支援：講義・実習において授業内容の小テストを利用すること、実習では実際臨床現場で用いられている治療機器を使用し、体験学習をする。臨床実習で困らないように症例のまとめ方を例示して学習させる。試験問題では国家試験に関する問題を 3 分の 1 出題することにより国家試験に慣れるように支援する。</p>					

	<p>learning BOX を利用して自主的な勉強に取り組めるように指導する。</p> <p>向学心の高揚：現場の臨床で働いている作業療法士や作業療法士の治療手段である作業活動に精通している芸術家、障がいを有し、自立した生活を送っている方を特別講師として招いて授業で講義していただき、学生の作業療法士としての向学心の高揚への取り組みを行う。また、面談を定期的に行い、目指す作業療法士分野の確認を行い、臨床実習では就職を意識した実習配置を行う。</p>
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>国家試験の合格率は100%を目指し、最低でも全国平均を上回る合格率を確保する。そのため、1年から4年生にかけて主要科目である3科目（生理学、解剖学、運動学）の業者模試を行い、学習効果の確認と学習の度合いを学生自身に周知させ、この模試での成績不振者においては learning BOX を用いて振り返りを行わせ補習を実施する。また、学生には自主的に国家試験学習ノートを作成を課す。また、3年次において外部から講師招いて、国家試験の学習戦略とグループワークを習得させ、さらに「総合演習」で業者模擬および学内試験を実施して指導する。加えて、成績不良者には補習授業を課して学習を促進させる。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>市民公開講座は昨年度と同様に専攻教員を講師として開催をする方向で検討中である。</p>

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療福祉学科医療福祉学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 医療福祉学科長</p> <p>分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)</p> <p>事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	1 年時から徐々に国家試験への意識付けを行い、3 年次以降は卒業論文作成、就職試験（公務員）対策、国家試験対策の 3 つの優先順位を整理し、各個人の力量に合わせて対応する。必ずしも国家試験受験を強要せず、福祉現場以外の就職先も確保しインターンシップも導入する。					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	高齢者、障がい者、児童等の領域におけるボランティア活動を強化し、学外実習で十分力量を発揮できるような取り組みを行う。座学においても国家試験と連携した授業展開を心がける。					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	2 年から 3 年時への春休み期間中に実施する 8 日間の社会福祉士実習 I において、個々人の適性を評価したうえで今後の進路を相談のうえ決定する。国家試験を受験する学生には 70% 程度の合格を目指した取り組みを展開する。					
4. 市民公開講座の計画・実施	臨床心理学専攻と共同開催で「日本家族心理学会」を本学で開催し、市民公開講座の代替とする。					

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療福祉学科臨床心理学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 医療福祉学科長/医療福祉学科臨床心理学専攻長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、 松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①外部実習受講を希望する学生が全員実習に参加できるよう、また希望する全員が学部における公認心理師受験資格を得られるよう目指す。近年は心理的問題を抱える入学生、コミュニケーションに支障がある入学生も多いため、公認心理師養成科目の修了希望者のうち 90%を目標とする。</p> <p>②講義内で小テスト、またはグループワークの場を合計 3 回以上実施することで、学力および社会性を高めることを、昨年度に引き続き継続して行う。</p> <p>③レポート課題に対しては、次につなげるために修正点を指摘するなど丁寧に指導する。</p> <p>④問題を抱える学生に対して早期に対応するとともに、学生相談室の協力を得る。必要がある場合は、保護者との連絡を密にする。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>①入学初頭における支援がその後の学業継続に大きな意味を持つため、1 年次における「臨床心理学の基礎」「医療人底力実践 I (学科プログラム)」で、大学での学び方 (ノートテイキング、learningBOX の使用法、図書館での検索方法等) について支援を</p>					

	<p>行う。</p> <p>②現場の職員や特別講師を許容される範囲内で招聘し、実践学修への意欲を一層高めることを目指す。受講生には授業に対する評価を実施し、学習の動機づけになったか把握する。</p>
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>①（臨床心理学専攻卒業のみで受験できる資格試験はないが）入学者で公認心理師養成科目の修了希望者が、卒業時に全科目の単位取得ができるよう支援する（1で記したように90%目標）。そのために、1年次から履修・修得の進捗状況や出席状況について確認するとともに、その学生に応じた支援を行う。</p> <p>②大学院在学者のうち、公認心理師資格受験者の合格率目標を76.2%超（2024年試験の全国合格率）とする。そのため、基礎的な学習を促すとともに、外部模擬試験の受験などを勧めて自ら知識を得る取り組みを行うよう働きかける。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>日本家族心理学会第41回大会が10月12日～14日に千代崎キャンパスで開催される（大会長：渡部千世子教授、事務局長：奥山滋樹助教）。うち13日に予定される大会特別講演および準備委員会企画シンポジウムを、医療福祉学科市民公開講座（後援）として実施する。</p> <p>*一般社団法人日本家族心理学会様の承諾済 *学科会議で承認済</p>

第1－4期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者:鍼灸サイエンス学科長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策WG副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長) 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育の充実 鍼灸師の職業観や将来像涵養を目標とした教育として、下記、教育講演開催とキャリアプランの指導を強化する。 ① キャリア教育講演を年1回開催する。 ② キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。(2～4年生)。 2 病院・クリニックへの就職支援 病院・クリニックの鍼灸治療の融合と協力の実態調査に基づき、卒業生の病院・クリニックへの就職支援に取り組む。過去10年分の求人票、卒業生就職先、インターネット調査で病院・クリニック就職先リストを作成し、成績上位者より面談し、希望者を募っている。昨年度、2名が病院・クリニックへの就職が内定した。今年度も継続して適応可能な希望者を病院・クリニックへ就職させる。 3 鍼灸スポーツトレーナー学専攻のフィールドワーク実施 スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。トレーナーの見学、指導を通じてチームトレーナー活動を学ぶ。また、トップアスリートの練習方法、ケアなどを直接見て学ぶ。 					

	<p>4 臨床実習の量の拡充と質の向上のため、下記見学実習を実施。</p> <p>①桜の森白子ホーム。</p> <p>②桜の森病院。</p> <p>③三重大学医学部附属病院麻酔科（統合医療・鍼灸外来）。</p> <p>5 実習・実技教育の向上のための取り組み 教育設備の入れ替えを行い、学習への理解、満足度を高める。</p>
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>1 学習目標：進級率 90%以上</p> <p>2 学習支援内容 学生との関わりとコミュニケーションを重視して下記内容を実施。</p> <p>① 出席および体調管理のチェックと指導</p> <p>② 課題提出状況の把握と指導</p> <p>③ 個人面談</p> <p>④ 定期試験前後のフォロー</p> <p>⑤ learning Box の活用</p> <p>3 意欲向上・交流促進のためのプログラムを計画 歓迎会、球技大会を実施。</p>
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>1 受験者あたりの合格率：100%を目標とする。</p> <p>2 入学者あたりの合格率：70%を目標とする。</p> <p>3 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施。</p> <p>② 対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。</p> <p>③ 成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。</p> <p>④ Learning Box の活用して隙間時間を利用した学習を促進。 モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生との関わりとコミュニケーションを重視して国家試験まで一緒に取り組む。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	12月に開催準備中。

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（救急救命学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 救急救命学科長</p> <p>分担者: 大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）村田尚久（大学事務局長）松永ひとみ（大学事務局 部長）宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）松原奈未（教務課長）</p> <p>事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						
中期計画 2.						
中期計画 3.						
中期計画 4.						
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ learning BOXを使用する教員割合を 50%以上にする ・ 講義で小テストを行う教員割合を 50%以上にする ・ 授業で学生に質問をし、回答させる形式を取り入れる教員割合を 50%以上にする。 ・ 教員が学生の名前を覚えるため、ネームホルダーを作る 					

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現役の消防士、救急救命士を特別講師として招聘し、現場での活動についての講義並びに学生との対話の時間を設ける ・各講義において、国家試験問題過去問を取り入れる
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者に対するの合格率：100% ・消防士になるための公務員試験対策として、3年4月から、大原公務員試験対策専門学校の専門コース（オンデマンド）の受講（鈴鹿医療科学大学プログラム）を推奨し（受講料別途8万円必要150分授業を約50回分、テキスト、模擬試験付き）、公務員試験への準備を行う。各学生に声かけを行い、オンデマンドで自学してもらう
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・11月24日（日） 13：30～ 「救急時に役立つ英会話」（仮題） 企画・実施に学生が参加する。ネイティブスピーカーを招聘する。参加者との対話を取り入れる企画を検討中 ・鈴鹿市消防本部と連携し、新たな学生消防団員を募る。

第1－4期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床工学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者：臨床工学科長</p> <p>分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長）</p> <p>事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>①大学入学時に Early Exposure（病院見学、医療機器操作体験）を行い、初年次教育の充実を図る。</p> <p>②新カリキュラムへの移行を滞りなく進める。（新設科目および履修学年変更があった科目の時間割配置、担当教員の割り振りなど）</p> <p>③4年前期・後期に開講される特別演習科目を学科全教員で担当し、国家試験対策を充実させる。</p> <p>④実習科目の実技試験は、ルーブリックを用いて評価を行い、実習科目の総合評価に反映させる。</p> <p>⑤学修サポートシステムの教員活用を進める。</p> <p>⑥保護者と連携の取れた指導の実施を進める。新入生と4年次過年度生を対象にして、出席状況不良の学生や成績不振の学生の保護者と密に連絡を取り、卒業までの脱落を未然に防ぐ指導を行う。</p> <p>⑦3年生を対象に、4年制養成校在学中の告示研修を受講させる。</p>					

	<p>⑧モチベーション向上とキャリア支援を目的として、新入学生を対象に、1年次後期開講科目の「キャリアプランニング」の受講を促す。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①GPAに基づいた学習指導計画を図ると共に、GPA 上位の学生を対象に早期の進路活動を促す。</p> <p>②欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り、状況を把握する。</p> <p>③大学祭における学科発表の支援強化を行う。</p> <p>④学生へのボランティア活動情報を提供し、自治体が行うイベントへ参加・協力(展示等)を促す。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①新卒学生の合格率は100%を目指し、入学者あたりの合格率は82.3% (42名/51名)を目指す。</p> <p>②GPA及び模擬試験によるクラス編成を行い、成績不振の学生を対象に前期から自習の義務付けと対策講義への出席を促す。</p> <p>③各クラスの習熟度に対応した国試対策や学修サポートを行う。</p> <p>④頻出問題と必要最低限な基本問題の演習を繰り返し行う。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国家試験全体も把握している。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。</p> <p>⑦早期から国家試験への意識を高めるために、3年次から全国統一模擬試験の受験を促す。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>①医学・工学・生体医工学・臨床工学等に関する市民公開講座を行う。</p>

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療健康データサイエンス学科/医用情報工学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者：医療健康データサイエンス学科長/医用情報工学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	①教育内容を十分に理解させるために、e-ラーニングシステムの利用科目を 10 科目以上とする。 ②コミュニケーション能力を向上させるために、PBL、グループワーク、発表会などを取り入れた能動学習の授業科目を 10 科目以上とする。					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	①データ・情報処理能力を向上させるために、コンピュータ演習・実習を含んだ授業科目を 20 科目以上にする。					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	①本学科の学生が希望する就職先は、幅広いデータ・ICT 関連分野であり、幅広い内容を学修するカリキュラムとなっている。それで、本学科では、卒業時までには何らかの国家試験または認定試験に合格している学生を 90%以上となることを目指す。					
4. 市民公開講座の計画・実施	①各種団体、教育機関、学術団体などが実施している市民公開講座、出前講義、研究会、シンポジウムなどで、講演・ポスター展示などを 5 回以上行う					

第1－4期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（薬学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者：薬学科長</p> <p>分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長）</p> <p>事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 学生および保護者の期待は、留年／休学せずに薬剤師国家試験にストレートで合格することである。授業において国家試験と関連づけた内容も盛り込み、復習などでも振り返り演習などを実施させる。 ② 低学年では、学修に必要な情報処理能力（履修登録、課題提出、e-ラーニングなどの使用について）を身につけているかについて、学生個々の状況を担任や学年主任が確認（出席、課題提出などで判別）し、情報処理の問題による学修の遅れを出来る限り早期に対応していく。薬学教育センターが主導し、担任/学年主任と連携して対応する。 ③ 低学年（特に1年生）で、学修環境の整備（学修習慣を身に付ける、学修技能の習得、予習復習のためのe-ラーニング等の整備）し、学修の状況を定期的にモニターする。学修進度に遅れがある学生に対して、「学生ケア会議」を設置し対応する。学生ケア会議には、学科長、薬学教育センター、担任、学年主任、必要に応じて心理士も加える。 					

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>① 教育ツールの提供のほか、学生が質問しやすい現場環境作りに取り組む。特に低学年には、教育ツールを取扱う知識や質問メールの作法などの導入教育（薬学教育だけではなく常識モラルの教育）を実施していく。これまで学修指導の一旦として実施してきた担任面談に加えて、学年主任による面談も実施することで学生が質問しやすい環境作りを構築する。</p> <p>② 高学年では、成績下位層に対して各科目担当教員/担任/学年主任が連携して学修支援を行い、学力を向上させる。また、中上位層には、向学心の醸成とモチベーション維持のための教育指導を実施し、自学自習のためのコンテンツ提供も行っていく。基礎科目演習、薬学総合演習、薬学特別演習それぞれのクラス編成をおこない、学修の効果を高めていく。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1, 2に基づき、学修のためのコンテンツ（学修ツール、授業フォローコンテンツなど）を提供し、知識の定着を図る。特に低学年にはそれらのコンテンツを正しく利用できるような指導しつつ学修環境を整備し、低学年での学力の底上げを行う。</p> <p>① 本学の薬剤師国家試験合格者の成績を指標として、4年次CBTの合格率が100%、各学生の得点率が70%以上になるような教育体制を構築していく。</p> <p>② 薬剤師国家試験の目標は、ストレート合格率の向上とし、60%を到達点とし、さらに合格率の向上を目指す。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>一般市民向けの公開講座を毎年、継続的に実施し、大学の魅力を広く発信し続ける。薬学科広報の一環として、企画広報課および入学課との連携を強化する。また、小中高校生への広報や高校訪問も充実させ、入学希望者数の拡大を目指す。</p>

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（看護学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の計画・実施 						
<p>責任者: 看護学科長</p> <p>分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)</p> <p>事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
中期計画 4.	→					
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>①カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムマップの活用度を向上させ、学生自身による振り返りを支援し、学びの促進への方向づけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆オリエンテーションでの具体的説明・入力時間を設定し、前・後期での担当学生との面談時に確認する。 ◆これまで何を身につけ、何が課題で、これから何を学んでいくのかを学生が主体的に理解できるようにする。 <p>②多様なメディア（learning Box、Google フォーム等）を用いてアクティブラーニングを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆反転授業を取り入れる。 ◆学生の理解度を高めるため、各回の授業での小テストやリアクションペーパー等を導入し、理解度の確認をする。 <p>③授業評価アンケートに対応し、授業内容の改善を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆アンケート回収率を高める。 各セメスター末には、各科目責任者からアンケート協力を呼びかける ◆学生のニーズに応える教育内容と教育方法を具体的に実施する。次年度のシラバス作成時に具体的な改善を続けている。 <p>④「教育の質に係る客観的指標」と看護学科の現状の教育内容を</p>					

	<p>精査し、必要とされる内容を組み込む。</p> <p>◆「教育の質に係る客観的指標」の内容を精査し、看護学教育内容との適応状態、不足内容を点検する。</p> <p>⑤2025年度カリキュラム変更に伴い新設される医療人底力実践Ⅳ（他学科連携プログラム）の円滑な運営のために、看護学科の体制整備を行う。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①成績不振者への学修支援計画の継続、評価、改善を行う。</p> <p>◆学科教務委員会、学生委員会、学年担当と担当教員が連携して成績不振者の学修支援計画を作成する。</p> <p>前期・後期セメスター開始時には、学生担当教員が学生面談を行い、学修目標の設定とその振り返りを行いながら、学習支援を行う。授業の出席状況や成績に課題がみられる学生については、教員間で情報共有し、早期に面談をして学修指導、生活指導を行っていく。</p> <p>◆学修支援計画の評価と改善を行う。</p> <p>特別教育を含め、成績不振者への学習支援の評価を行い、必要に応じて修正をしていく。</p> <p>②入学前教育（推薦入試予定者で希望者）とリメディアル教育を充実させ、入学生の学習能力を向上する。</p> <p>総合型選抜入試の導入をはじめ、いろいろな入試スタイルで入学する学生に対して、入学時のプレイスメントテストで高校までの学習内容習得状況の判断を行い、必要な学生にはリメディアル教育を勧めていく。リメディアル教育の出席状況についても情報共有し、担当教員を中心に早期から学修指導を行っていく。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>2025年2月の看護師国家試験105名、保健師国家試験30名受験予定で、100%合格を目指す。</p> <p>看護師国家試験受験者は、2021年度入学者108名のうち100名が受験予定であり、入学者あたりの合格率目標は92.5%とする。</p> <p>1・2年生には基礎知識定着を目的として夏期・春期休暇中にe-learningの課題を課すとともに、科目別模擬試験を12～1月に実施し学習状況を確認する。</p> <p>3年生前期は病態の理解など専門知識の定着を図るためセミナーを実施し、年度末に習熟度確認の模擬試験を実施する。</p> <p>4年生は模擬試験結果を有効活用し自己の課題を早期に把握し課題解決に取り組めるようセミナーや学習計画立案を年度初めに実施する。</p> <p>国家試験で求められる読解力、思考・判断力の強化を図るため、セミナーを企画実施し、模擬試験によって学習状況を確認する。学力不振学生を対象とした強化セミナーを9月から開始し、学習状況や成績を担当教員と共有し、継続的な学習支援の体制をとる。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>7月27日（土）10:00～12:00 白子キャンパス1号館7階1701教室で市民公開講座を開催する。</p> <p>テーマは「一緒に考えよう！子育て世代を守るための災害への備え」</p> <p>◆頻発している災害や今後の発災の可能性を受け、妊産婦や乳幼児を子育て中の家族が防災や発災時の対応について理解を深め、日ごろからの備えを見直す機会とすることを目的とする。</p> <p>◆子育て家族を中心に市民が参加できるように広報する。</p>

第 1 - 4 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療科学研究科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2023 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 学内研究の推進と研究指導 4. 広報活動の計画・実施 						
責任者: 太田伸生（医療科学研究科長） 分担者: 事務局：大学院課						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.			—————→			
中期計画 2.			—————→			
中期計画 3.			—————→			
中期計画 4.			—————→			
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	①図書館、自習室等の設備の不足、兼任教員を中心とした講義および研究指導体制等、教育の質保証の観点から、東京サテライトコースの学生募集を停止し、順次廃止していく。					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	①社会人院生が多いため、利便性を考慮し、支障のない範囲でWEBでの講義を活用する。 ②院生の投稿論文費用の負担軽減のため補助を強化し、論文投稿を促して研究の活性化と対外発信を積極的に行う。					
3. 学内研究の推進と研究指導	①大学院兼担教員を可能な範囲で増員し、全学的な研究指導体制を強化する。 ②大学院セミナーを博士課程選択科目として活用することを通じて、学内での研究情報共有と大学院教育強化を推進する。					

4. 広報活動の計画・実施	①学部学生及び社会人、特に本学卒業生の大学院入学の促進を目的とした情報発信等の広報活動を強化する。(同窓会や大学祭を利用して大学院の情報を流すなど情報提供の場を設ける。)
---------------	---

第1－4期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（薬学研究科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2023年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 学内研究の推進と研究指導 4. 広報活動の計画・実施 						
責任者：飯田靖彦（薬学研究科長） 分担者： 事務局：白子教務課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.			—————			—————▶
中期計画 2.			—————			—————▶
中期計画 3.			—————			—————▶
中期計画 4.			—————			—————▶
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	講義に最新の知見を取り入れるとともに大学院生に講義内容が伝わるようシラバスの記載事項を精査し、教員間で相互に確認する。					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	社会人大学院生が高度専門教育科目を受講しやすいよう講義時間を柔軟に調整するとともに、希望により遠隔講義を取り入れていく。					
3. 学内研究の推進と研究指導	学内共同研究の推進および複数指導体制の充実を図るため、大学院兼担教員を増やし、特に若手研究者の増員に努める。					
4. 広報活動の計画・実施	薬学部学生に向けた大学院説明会の実施、同窓会での社会人向け大学院説明会の実施、大学祭での一般及び在学生向け大学院紹介ブースの設置、大学院の相談窓口の設置、を行う。					